

# キャッシュレス決済の進展と日本経済

1月28日（水曜日）、第15回（文系第8回）チャレンジ講座を行いました。今回は経済学部の高見博之先生に「キャッシュレス決済の進展と日本経済」というテーマで講義をしていただきました。

まず初めに、「現金しか使えなくなったらあなたの生活は変わりますか」という質問からスタート。身近な話題だけあって、生徒は一気に講座に引き込まれた様子でした。

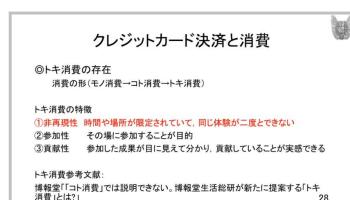


キャッシュレス決済の種類は、①クレジットカード、②電子マネー（プリペイド）、③デビットカード、④スマホ決済、の4つに大別できます。その中でも一番使用されているのはクレジットカードで、全体の8割を超えてます。日本におけるキャッシュレス決済比率は、2024年に約43%で、比較可能な2023年での隣国韓国や中国などと比較するとかなり低い水準にとどまっています。日本政府は将来的に国内指標（新指標）での「80%」を目標としているとのことでした。

キャッシュレス決済のメリットは、①消費者の利便性向上、②人手不足対応、③現金取引機会の減少による犯罪防止、④インフラコストの削減、⑤公衆衛生上の安心の実現、の5つです。現金を扱う場面を減らすことによる盗難の防止、紙幣や硬貨に触れる機会が減ることによる衛生上の利点など、具体的な例で説明していただき、納得することができました。



消費に関しては、①モノ消費、②コト消費、③トキ消費の3つの形態があります。この中で「トキ消費」は「非再現性（＝コンサートに行くなど）」があり、今後の消費拡大が最も期待できるとのことでした。



講座の最後に、「『経済効果 > コスト』であれば、キャッシュレス決済を推進する意義があるが、その際にはクレジットカード会社と加盟店の間で利害対立が懸念される。発生した場合には交渉力の小さい経済主体への支援が必要である」と高見先生はまとめいらっしゃいました。

今回の記事（講義概要）は、杵築高校が担当しました。

今回の講座には25校419名の高校生が参加しました。感想の一部を紹介します。

○これまで経済学について詳しく知ることができませんでしたが、今日の講義を聞いて、経済学というものがどうということを学び、社会のためにどのような研究を行なっていくのか理解することができました。これからの進路探究では、経済学部より一層調べていきたいと思います。本日は貴重なご講演、誠にありがとうございました。

○キャッシュレス決済にはメリット、デメリットがあることを改めて感じました。そして、対象のメリットやデメリットを比較して判断することの重要性がわかりました。今後さらに普及し、利用する場面が増えると思うので、デメリットに注意し適切に活用したいです。

